

神の言葉の権威

コナーズビル インディアナ州 アメリカ合衆国

1953年06月02日

1 …イエス・キリストの御名によって。アーメン。

もし人々がただ信じることさえできれば——すべてのことに対して信仰を持つことができれば。

今日、ずっと南のハイウェイを走って、ここから何マイルも下った、ジェファーソンヴィルに近い所で、私は小さな店に立ち寄ってサンドイッチを食べていました。子どもたちと妻を家に連れて帰る途中でした。私が食事をしていると電話が鳴り、遠く別の地区の人が、標識を付けた私の車が道路を走っていくのを見たというのです。そしてそのレストランで止まって、死に瀕しているひとりの女性のために祈ってほしいと頼まれたのです。

その女性に奉仕している間——何と痛ましいことでしょう——私はこう思いました。「彼女は本当に、もうすぐ癒しに手が届くところまで来ているのに、その小さく、しかし大切な『信仰の部分』が塞がれてしまっていて、越えることができないのだ」と。

ああ、もし彼女がほんの少しでも“見て”さえいたなら、今夜この会場に座っていただろうに。聖霊はそこにおられ、完全に備えておられ、なさろうとしておられたのです——いや、もうすでに“なして”おられたのです。

私たちのためにできることは、すでにすべて備えられています。

あなたの救いはすでに完成しています。キリストがカルバリで死なれた時、それは決定したのです。

あなたの癒しも、あなたの救いが成し遂げられたその同じ日に完成したのです——ただ、あなたがそれを信じることさえできれば。

私はその女性の中に、一つ感謝すべき点を見ました。それは、彼女が誠実だったことです。

自分が信じていないと分かっているのに、「信じます」とは言いませんでした。

彼女は正直でした。「どうしても信仰を掴めないように思うのです」と言ったのです。

2 さて、よくご覧ください。信仰というものは、どんな症状も見ません。

信仰は、“勝利”以外のものを一切見ないのです。

信仰はすでに与えられており、もうこれ以上、何かを“してもらおう”必要などありません。

たとえあなたが横たわり、死にかけていて、

半ダースもの医者たちが周りに立ち、「血圧が下がっています、心臓が弱っています」と言っていたとしても——

それでも、信仰はあなたを少しも動揺させません。

もしあなたが「自分は生きる」と信じているなら、

どんなことが起ころうとも、あなたはなお信じ続けるでしょう。

それが“信仰”なのです。

もしあなたがただ、そのところまで行くことさえできれば……。

今夜あなたに必要なのは、まさにその種類の信仰なのです。

3 さて、この百人隊長ですが——“百人卒長”というのは、百人の兵士を指揮する指導者のことです。しかし彼は、自分を前に出さず、背景に下がったのです。

皆さんにも、どうかそうしていただきたいのです。自分を前に押し出さず、背景に退くこと。“自分でない何者か”になろうとしないことです。私はよく思うのです。麦畑で麦が伸びているとき、小さな麦ほど上にピン

と突き出て、まるで劣等感から背伸びしているように見える。その頭の中には実が入っていないのです。

重い穂は頭を垂れます。満ちた穂はうなだれます。満ちた心もまた、うなだれるのです。「主よ、私はふさわしくありません」——そうですね。そしてこの男も、自分はふさわしくないと考えていました。彼はこう言いました。「主よ、あなたが私の家の屋根の下にお入りくださる資格など、私にはありません」と。「私はあなたのもとへ行くことさえ、ふさわしいとは思えなかったの、人を遣わしたのです」と。しかし彼は言いました。「主よ、私は権威のもとにいる者です。

この人に『行け』と言えば行きますし、あの人に『来い』と言えば来ます」——

彼は権威を持っていたのです。言い換えれば、もし彼がその部下に「行け」と命じれば、その男は必ず行かねばならない。なぜなら隊長は彼の上に立つ者、彼より上位の者だからです。そして部下は、自分の主人に従わなければならないのです。

4 さて、よくご覧ください。この百人隊長は、自分の仕事の中で、イエスがどのようなお方であるかを見抜いたのです。彼はこう言いました。「私はこの人に『行け』と言えば行きますし、この人に『来い』と言えば来ます。主よ、あなたが私の家にお入りくださる資格は私にはありません。けれど——ただ、ひと言お言葉をお与えください。」——これです。権威です。彼は知っていたのです。

イエスがあらゆる病、あらゆる患い、死にも、地獄にも、すべての上に“権威を持っている”ことを。そして、イエスがただ「言葉を語られれば」——それで決まるのだ、と。それで十分なのです。イエスご自身は、その少年のもとに行き、手を置き、熱を叱りつけることも喜んでなさろうとされていました。しかしこの出来事は、主を驚かせたのです。イエスは言われました。「私はイスラエルの中でも、このような信仰を見たことがない。」それは信じるべき人々に対しての言葉でした。その信者たちの中にさえ、これほどの信仰を主は見なかったのです。

ただ、「主の御言葉は、それで決まる」という確信——証言の力とは、“権威の力”なのです。そして、クリスチャンの皆さん。今夜、主の御言葉こそが“権威の力”なのです。主が語られたことは、必ずそのとおりになります。

あなたがどう思うか、私がどう感じるかに関係なく……主のお言葉は、変わることなく、そのとおりになるのです。

5 主は、この時代がこうなると“語っておられた”のです。

ある人がこう言いました。「これのために祈っているのですか？あれのために祈るべきでしょうか？ この世の不道徳さは、一体どうすればいいのでしょうか？」

私は答えました。

「これは必ず起こらなければならないのです。私にはどうすることもできません。

神が“そのようになる”と言われたのです。

ソドムとゴモラの時のようになる、と。

だから、あなたにも私にも、それを止める力はありません。」

私たちにできるのはただ一つ——

福音を宣べ伝えることだけです。

そして、来たい者は来る。しかし、

神が引き寄せてくださらなければ、誰一人として来ることはできません。

ですから、すべては神のお働きなのです。

もし神があなたをお呼びになり、

「わたしのもとへ来なさい」と

その召しをくださっているのなら——

あなたは、本当に、本当に幸せな人のはずです。

6 さて、これこそが神の御言葉です。御言葉は“第一”——いつでも“最優先”です。

そして、聖書全体に基づいていない宗教的教えというものは……私はそのようなものを恐れます。御言葉をねじ曲げれば、どんなふうにも言わせることができます。しかし、それは真理として証明されなければならぬのです。

もし私があなたに、「私はあなたを癒せます」と言うなら、それは御言葉に反することになります。なぜなら、聖書はそのようには教えていないからです。

私は、イエスがすでになされた以上のことを、何ひとつ行うことはできません。

主は、あなたのために死なれた時に、すでにあなたを癒されたのです。

これは聖書がはっきり教えていることです。「主は、私たちの背きの罪のために傷つけられ、その打たれた傷によって、私たちは癒された」(聖書)

そして聖書はさらに言います。「モーセが荒野で青銅の蛇を上げたように、

人の子も上げられなければならない」と。モーセが青銅の蛇を掲げたのは、“複合的な理由”のためでした。それは、病の癒しと、罪の赦しのためです。

民は神とモーセに逆らってつぶやいたため、蛇に噛まれて倒れていました。

それで、あの青銅の蛇は、彼らの病を癒し、また彼らの罪を赦したのです。

そして、あの青銅の蛇が掲げられたのと同じように、人の子もまた、同じ目的のために、掲げられなければならないのでした。

——これが真理なのです。

7 ですから、主がすでになされたことを、私が行うことはできませんし、

誰にもできません。けれども——もしあなたが“信仰を受け取り”、

「主がすでにこれを成し遂げておられ、それは“私のためである”」と

個人的に信じることができるなら、その瞬間、あなたの癒しはそこにあります。

それは決して失敗しません。ですから——神を信じなさい。神は、教会の中に「宣教師(説教者)」を置かれました。ここにいる牧師たちも、各地の牧師たちも、すばらしい神のしもべであり、神に油注がれています。彼らには、私と同じように、いや誰と同じようにも、病人のために祈る権利があります。そして、牧師だけではありません。教会のひとりひとりのメンバーにも、病人のために祈る権利があるのです。癒しの賜物は“教会全体”の中で働きます。牧師だけではありません。聖書にこうあります。「互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。

そうすれば、癒されます。義人の熱心な祈りは大きな力がある。」——私は、この御言葉を信じます。さて今夜、私が皆さんにお願いしたいのは、主を信じることです。そしてそのあとで、神は預言、その他の賜物、教師、牧師など、さまざまな賜物を教会にお与えになりました。それはすべて、教会を整え、成熟させ、

人々がカルバリで成し遂げられた“主の完成された御業”を信じるためなのです。

8 では、もう一度、頭を垂れましょう。主よ、私たちはあなたの御名を呼ぶことを喜びといたします。あなたの大きい恵みを思うとき、私たちの心は愛で溶けていきます。エデンの園から堕ちたアダムの子孫である私たちに、あなたはどれほどの恵みを注いでくださったことでしょうか。父なる神は御子を、贖いとしてお与えくださり、カルバリにおいて世の罪を取り除き、病める者、苦しむ者を癒してくださったのです。そして時代を通して、教会の中に大いなる聖霊の動きがあるたびに、癒しがあり、奇跡があり、しるしが現れました。どの時代にも——

あなたが来られた場所には、奇跡としるし、不思議がありました。今日もなお、信じる人々がいることを感謝します。あなたの愛する御子がかつて問いかけられました——「わたしが地上に戻るとき、そこに“信仰”を見いだすか」と。“聖い人々はいらるだろうか?” “正しい人々はいらるだろうか?”とは問われませんでした。

“信仰があるかどうか”——その信仰こそ、何と尊いものでしょう。神よ、どうか今、私たちの不信仰を助けてください。今夜、病める者、必要を抱える者、

そして罪の中にいる男の人、女の人を祝福してください。どうか彼らの心に恵みをお与えください。これを、キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

9 さて、明日の夜には、「主の使い(The Angel of the Lord)」のお話をさせていただこうと思います。そして、その写真もここにお持ちいたします。では呼びましょう……そうですね。85番から呼び始めましょう。85番から100番まで。その方々にラインに並んでいただき、そして……この場所に来てもらうのは、ただ“人々のために油注ぎが流れ始めるため”なのです。それによって、あなたが……(聖霊の導きを受けられるように)。さて、皆さん——どうか覚えていてください。これはショーでも、見世物でもありません。私たちは、全能の神の主権的な恵みのもとで取り扱われているのです。私は皆さんに知っていただきたいのです。これは他のどんな目的のためでもありません。神——私の厳粛なる裁き主——がご存知です。

これはただ、神の栄光のため、そして主イエス・キリストの誉れのために行っているのです。そしてこれらの働きは、「わたしのする業を、あなたがたも行うようになる」と主ご自身が語られた御言葉が成就するためなのです。——祈りのカード85番の方はどなたでしょうか?【テープの切れ目】「それは……どうかな……あれは……?あなた、持っていますか。ええと……これで全部でしょうか。

数えてください。もし抜けている番号があるなら……時々、外に出ている方がいますからね。そして、もし外に出ているのなら……その場合は私にもどうすることもできません、わかりますね。」【テープの切れ目】

10 [聞き取り不明の語]神よ、今夜、どうか御霊による導きをお与えください。

かつてあなたの愛する御子、ナザレのイエスが地上におられたとき、主は人々に偉大なことばを語られました。主は決して「自分が癒す」とは言われませんでした。「父がわたしに見せてくださることだけをするのだ」と言われました。

主よ、どうか今日——この暗く困難な時代のただ中で——主の尊い御言葉が成就しますように。今夜、ここにいるすべての“必要のある者”に、あなたの憐れみが注がれ、癒しが与えられますように。この壇上にいる者も、会衆席にいる者も、

どこにいる人であっても構いません。この町の中であって、療養所にいる者、病院にいる者、どこかで苦しんでいる多くの人々……私たちの心は彼らのために痛みます。主よ、どうか今夜、彼らにも恵みをお示してください。神よ、どうか与えてください。いま私たちを助けてください。ここに大いなる集会を、この町に大いなるリバイバルを与えてください。そして、そのリバイバルの後には、町中のすべての教会が、人々によって満ちあふれますように。それぞれが自分の教会に戻り、自分の場所を取り戻すことができますように。主よ、どうかそれをお与えください。私たちはこれを、キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

11 【テープの切れ目】……これがあなたの潜在意識(サブコンシャス)です。

そうですね? 私たちはそのように教えられています。では、こちらを見てください。ここに“第一の意識”があります。そしてここに“第二の意識”があります。

さて、こう尋ねましょう。ずっと昔に見た夢を、今でもはっきり覚えている、という方はいますか?手を挙げてみてください。では、そのときあなたはどこにいたのでしょうか?あなたの“どの部分”がそこにいたのでしょうか?

あなたは、ベッドに横になって眠っていたのに、別の場所で、自分が何をしていたかを覚えているではありませんか。——それが“あなたの潜在意識”なのです。

さて、この“第一の意識”が活動をやめると、“第二の意識”が活動を始めます。

そして、その第二の意識が活発になったとき、あなたは、この第一の意識で行ったことを夢として見ます。そして目が覚めると、あなたは第一の意識にもどり、

第二の意識の中で見た夢をここでしっかり覚えているのです。お分かりになりますね。

12 さて、よくご覧ください。ここにいる皆さんの中には……多くの方が、先ほど手を挙げませんでしたね。つまり——夢を見ることがほとんどないということです。

実際、まったく夢を見ない人というのは大勢います。私は、これまで何千人もの“夢を見たことがない人”に会ってきました。では、どうしてでしょうか？

今、例えて説明してみましよう。どうかよく注意して聞いてください。

ここに“第一の意識”があります。普通の人の場合、潜在意識はこの位置——

まあ、例え話として、このくらいの距離にあるとしましょう。

しかし——夢を見ない人の場合は、その潜在意識が、あの壁の柱(ピラスター)の向こうまでずっと遠くにあるような状態なのです。さて、ここがポイントです。こういう人が眠ると、とても深く、ぐっすり眠ってしまうのです。

一方、夢を見る人は、実は“完全には熟睡していない”のです。

夢というのは、一瞬の出来事ですが、ただ——潜在意識がそこに近いので、

すぐ夢を見てしまうのです。夢を見ない人が夢を見ないのは、

遠く離れた“潜在意識”に戻ることができないからです。そして、それは本人にはどうすることもできません。

13 さて、では仮にこう言ったらどうでしょう。「では皆さん、夢を見る人は、“私に夢を見せてください”と。けれどあなたにはできません。夢を見させる“何か”——その働きをするものは夢を見せることができますが、あなた自身が意図して夢を見ることはできないのです。では見てください。あの後ろの、夢を見ない人——彼は、夢を見ないことを自分でどうにもできません。そしてこの前の、夢を見る人——彼も、夢を見ることをどうにもできないのです。さて、**預言者(シーア)**というのは、潜在意識が後ろにあるわけでも、ここにあるわけでもありません。ちょうどこの位置——“意識の境目”にあるのです。彼は眠りません。

ただ、次元から次元へと移るだけなのです。それで、目を開けて立ったままで、

そのまま“見る”のです。彼はそれをどうすることもできません。それは彼がしたことではなく、神が、そうされているのです。ここでお聞きします。

「賜物と召しは、悔い改めを離れて与えられる」——これを信じる人はいますか？聖書がそう言っています。イエス・キリストは初めから神の御子でした。

エデンの園において、女の子孫として来られ、蛇の頭を砕くお方と約束されていました。(そうですね?)

14 モーセは、生まれたときから“美しい子”、特別な目的をもって生まれた子でした。神が彼をこの世に送られたのです。モーセ自身には、何ひとつ選ぶことも、関わることもできませんでした。(そのとおりですね?)
バプテスマのヨハネはどうでしょう。彼が生まれる712年前に、すでに「荒野で叫ぶ者の声」として預言されていました。エレミヤ……エレミヤ書1章4節で、神はエレミヤに言われました。「お前が母の胎に形づくられる前から、わたしはお前を知っていた。

母の腹から出る前に、お前を聖別し、国々への預言者として立てた。」

彼にそれをどうすることができたでしょうか？できません。

「賜物と召しは、悔い改めを離れて与えられる」——そのとおりです。

あなたがそのようなのは、神があなたをそのように造られたからです。

「思い悩むことで、背丈を一キュビトでも伸ばせる者がいるか？」

——主イエスはそう言われました。では、どうして他の何かを“真似しようとする”のでしょうか？それは、あなたらしくないことを無理にしようとしているだけです。正しくないことです。目が茶色の人が、どうやって

青い目になるでしょう?茶色なら茶色なのです。背丈を1インチでも高くすることも、低くすることもできません。

15 さて、このことをよく理解していただきたいのです。ここに立っておられる方々と私が話すとき、必ず“何か”がここで起こらなければならないのです。

それは、私自身の意識が——その人のところに入っていきように、

あるいは、その人の人生の領域へと入っていき、その人の人生が“開かれて見える”ようになるということです。そしてもちろん、その人と話せば話すほど、

聖霊がさらに深く動き始め、より多くが見えてきます。もっと話すと、もっと開かれます。そのとき、私は——たどり着くために“押し進む”ような状態になります。言葉をたとえに取り、語ります。それは——神と私以外、誰にも分からない領域へ入っていくのです。そこへ聖霊が連れて行かれるとき、別の“次元”へ踏み入れるのです。ですから皆さん——祈りの中にいてください。どうか、私のために祈ってください。そして私も、あなたがたのために祈ります。

16 こんにちは、婦人。私たちはお互いに知らない者同士だと思います。

私はあなたを知りません。そして私は、あなたを皆さんの前で“見世物にするため”にここに立っているのではありません。もしあなたが病んでいるなら、

あるいはあなたに何か問題があるのなら、神がそれを明らかにされます。

もし何もなければ、それもまた神が明らかにされます。私は、あなたが誠実な心で来られたと信じています。そして、確かにそのように見えます。

少し前のことでした。ひとりの男性がこの壇上に上がってきました。

彼は、これ(この働き)を“精神感応(メンタルテレパシー)”だと思っていたのです。彼は祈りのカードに「私は〇〇の病気で、〇〇を持っています」と

嘘を書いてやって来ました。しかし、神はその場で彼を見抜かれました。

そして彼が祈りのカードに“嘘で書いたはずのもの”が、その場で彼自身に臨んだのです。彼はその病で、今も死にかけています。神をもてあそんではなりません。

これは“遊び”ではありません。そして、その男は——なんと牧師だったのです。

この働きは、信じる者たちのためのものです。

17 さて、姉妹よ、私はただあなたとお話したいのです。ここにいる大勢の中から、あなたの人生だけを聖霊が見分けられるためにお話ししているのです。

これを行うのは、私ではありません。私たちの主イエスがそうされたように——

働いておられるのは主ご自身です。私はただの人間です。教育もありません。

中学にも行っておらず、七年生(中学校1年)までです。ですから、学者たちが使うような難しい言葉も、彼らの語る高い理屈も分かりません。私が知っている唯一のことは——私は主イエスを愛し、そして主イエスも私を愛してくださっている、ということです。私はこの“本”(聖書)についても、多くを知っているわけではありません。しかし——著者(Author)をよく知っています。これは、最も良いことです。そうでしょう?私は、書かれた文章すべてを知るよりも、それを書かれた“お方”を知りたいのです。その方が正しいのです。さて、あなたと話して分かります。あなたはクリスチャンの女性です。そして、大きな信仰を持った方です。今、あなたは少し遠のくように感じるでしょう。そして今あなたが感じているその“感覚”——それは、あなたを傷つけるものではありません。あなたは今、何かのご臨在の中にいることを自覚しておられますね。そうですね?

ええ、そうです、姉妹。それこそが——**主の使い(The Angel of the Lord)**なのです。祈っている時、私がいつもこの方向(右側)に向くのをあなたはお気づきでしょうか。それは、主の使いは、いつも右から来られるからです。

一度も、そこから来られなかったことはありません。

私は人々を前に呼ぶとき、必ずこの方向を向かせます。そうすれば、その御臨在が、私へ来るその人々の上に留まることができるからです。

18 さて、先ほど——あなたは一瞬、ずっと“遠のくように”見え、そしてまた戻って来られました。私は、あなたがクリスチャンであることを知りました。それは、あなたが祈っている姿が見えたからです。あなたはどこかで、ひざまずいて祈っていました。そして、その祈りの中で、この集会のことを祈っていました。

あなたはこう祈りましたね——「もし私がああのプラットフォーム(壇上)まで行くことができたなら、私は必ず癒されるでしょう」と。それが“あなたの祈り”でしたか?それとおおりにですか?——このように、神はあなたの祈りを明らかにされるのです。あなたは……苦しんでおられます。それは——腫瘍(Tumor)です。

腫瘍が、胃にあります。そうですね?そしてそれとは別に、あなたには

発作のような症状があります。これはおそらく——胆のう(Gallbladder)か何かでしょう。そのために、あなたは時々、激しい苦しみに襲われます。

そうでしょう?(「そうです」)それは本当ですね?(「本当です」)

あなたは——医療をあまり好まない方ですね。お医者さんに頼ることはしません。あなたは神だけを信頼してこられてきましたね。違いますか?

(「はい、そうです」)私は、それを見ました。

さて、あなたは今、イエス・キリストが死からよみがえられ、

今夜ここにおられ、あなたを癒すためにご自身を現しておられる

——そのことを確信されましたか?(「本当にそう信じています」)

あなたは信じていますね?もう、これ以上言う何も必要はありません。

ただ主にお願ひするだけで良いのです。あなたは信じますか?

(「はい、信じています」)会衆の皆さんは、これを信じますか?

今、私はこの婦人に何を語ったのか——その内容を覚えてはいません。

それは“幻(Vision)”だったからです。集会の後、人々が

「何が起きたのか」を私に教えてください。しかし——確かに何かが起こったことだけは分かります。あなたが今聞いたのは、“私の声”ではありましたが、

語っていたのは私ではありません。私は、その瞬間、別の場所にいたのです。

聖霊が、別の領域へ私を連れて行かれたのです。しかし——

語られたことは“真理”でしたか?(「真理です」)すべてが“真理”でしたか?

もしそうであれば、手を上げて証しできますか?(婦人:「真理です」)

よろしい。主は言われました——「わたしのする業を、あなたがたも行うようになる」今、ここで起こったことこそ、主がなされたその“業”なのです。

19 さて、今夜——超自然の領域の“何か”が、この朽ちる肉の唇を通してあなたに語りかけました。(そうですね?)そして、それはあなたの人生を現し、

何が起きているのか、何が問題なのかを示しました。では、あなたは信じますか?主イエスが、あなたのために祈るようと、私を遣わしてくださったことを。(「はい、信じます」)ではこちらへ。

天のお父様、私たちは、へりくだった男と女として、あなたの御前に頭を垂れます。病める者、必要を抱える者のために、私たちの心は深い同情に満たされます。神よ、批判があり、嵐があり、あらゆる困難がある中

でも、あなたはいつも私たちを一つひとつの嵐の中から“連れ出して”くださいました。そして、あの偉大な日——私たちが御前に立つその日に、私たちは「戦場に立ってきた者」であることを示したいのです。いま、この姉妹がここに立っています。必要を抱えた者として。主よ、あなたは彼女の状態をご存じです。私たちではなく——

あなたをご存じであり、あなたが彼女の人生のことを彼女自身に明らかにしてくださいました。どうか、彼女を癒してください。これはあなたの御言葉です。

「病人に手を置けば、彼らは快復する」「義人の熱心な祈りは大きな力がある」

私たちは罪がないから“義人”なのではありません。義人とは、自分の罪を義な神に告白し、そして信仰によって信じる者のことです。私は、この姉妹の癒しを求めます。あなたの御子、イエスの御名によって。

アーメン。

神があなたを祝福してくださいますように、姉妹。さあ、見てください。

もし神があなたの過去の人生を啓示できるのなら、神はあなたのこれからも啓示することができます。そうですね？あなたは——よくなります。ですからもう行ってよいのです。心のすべてで信じて進みなさい。

20 こんにちは、婦人。私たちはおそらく互いに知らない者ですね。

(婦人:「お会いしたことはありますが、あなたのことはよく知りません。」)

そうですね、姉妹。私も、あなたを“知っている”わけではありません。

今日はただ、あなたの兄弟として少しお話ししたいのです。

そして、おそらくあなたには何か必要があるのでしょう。

そうでなければ、ここに上がって来ることはなかったはずですよ。

ここに来られたのなら、私は神があなたを癒されることを願いますし、

私にできることはすべてしたいと思います。

私はあなたのために祈ることができます。

しかし——多くの年前、主イエスが私に語られたときのことを信じています。

約7年前のことでした。主は私にこう言われました。

「病人のもとへ行って祈りなさい。そして彼らに“信じるように”教えなさい。

そうすれば、その祈りの前に立ちだかるものは何もない。」

それはその後、科学的にも、世界中で何度も確認されてきました。

さて、あなたには最近、医者にかかったり、何か治療を受けたりした“跡”が見えます。あなたは——注射(Injection)による治療を受けたことがありますね？

そうですね？何度もその治療を受けています。私には——SRペニシリンのように見えます。そうではありませんか？私は、主がその名をおっしゃるのを聞きました。そしてそれは、腎臓の感染症のための治療です。

そのとおりですね？さらにあなたには、**婦人病(女性特有のご病気)**がありますね？そうですね？そして医者から、手術が必要だと告げられています。

これは本当ですか？(「はい。事実です。2人の医者に診てもらいましたが、どちらにも同じことを言われました。」)ではお聞きします。

もし今夜——私と、ここにいる信じるクリスチャンたち全員が主イエスに心からお祈りするなら、神はあなたを癒してくださいと信じますか？(「はい、信じます。」)では、こちらへ来てください。

主よ、私たちは主イエス・キリストの御名によってこの小さな婦人のために来ました。彼女は必要を抱えて立っておられます。主よ、あなたは彼女を癒すことができになります。そしてそれができるのは、あなただけです。私たちは自分では何もできません。私たちにできるのは、福音——御言葉と、聖霊の力をもって来ることだけです。福音は、力と聖霊の現れを伴って来ました。天の神、

すべての良きものの創造者よ、どうかこの婦人に、あなたの祝福をお与えください。私は、信じる者として手を置きます。それは、彼女が、私が祈り求める祝福にふさわしいと信じるしるしです。どうか、彼女の信仰が高められますように。

そして彼女が癒され、健やかとなり、あなたの栄光のために長く生きることができるようになります。これをキリストの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福してくださいますように、姉妹。

さあ、行きなさい。主イエスがあなたと共におられますように。

21 私はあなたを知りません。おそらく私たちは見知らぬ者同士でしょう。

ええ、姉妹、私たちは初対面です。では——

あなたの人生は……(テープ切れ)……あそこです、婦人。いま、あの列に座っている方——その婦人のところに、主の霊が動いています。ちょうど、ここです。

あなたは主を愛しておられますね？そして、あなたもまた“祈りを必要とする者”のひとりではありませんか？あなたには、何か……体が腫れるような症状がありますね。そうでしょう？それは少し——

水腫(dropsy)のようなものです。そうですね？そして——

心臓の状態にも問題があります。そのとおりではありませんか？

あなたは、癒しを受けたいと願っていますか？

そして、イエスがあなたを癒してくださると信じますか？

信じますね。では——立ち上がってください。

しばらくのあいだ、しっかりとお立ちください。では頭を垂れましょう。父よ、どうかこの婦人をお助けください。今、主の霊がこの哀れな婦人に向かってはつきりと動かれました。私たちが考えている以上に、彼女は深い必要を抱えているのかもしれませんが。どうか憐れみをお与えください。彼女を癒してください。主イエスの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福してくださいますように、姉妹。

22 ただ、あの婦人に対して“同情”を感じたのです。ええ。あなたがそのように感じて立ち上がったのは良いことです。主があなたを祝福してくださいます。

さて、あの婦人と、こちらに今座ったあの婦人には、何か“つながり”のようなものがあります。ここに立っていると——そこにそれが見えます。では、少しだけお話ししてもいいでしょうか。あなたは、今起きていることを神から来たものだと信じますか？そうでなければなりませんよね？ええ、そうです。あなたにも“感染症”がありますね。そうでしょう？こちらの婦人……今座ったあの婦人にも、感染症がありましたね？あれがその場所です。見てください、あの婦人は癒されました。すると——その病を引き起こしていた悪霊が、憐れみを求めて叫び出したのです。今ここで働いているのも、同じ現象です。あなたにも似た症状が呼びかけているのです。理解していただけるでしょうか。霊的な働きが起こるには、

“協力する信仰(cooperative faith)”が必要なのです。イエスは、不信仰な者たちを外に出されました。不信仰があるところでは——何ひとつ成すことができません。福音を説くこともできません。語ることさえ、ほとんどできません。

信仰が必要なのです。そして悪霊たちは互いに呼応し、結びつこうとするのです。これがその働きなのです。さて——あなたは強い神経的な問題も抱えてこられましたね？そうでしょう？“神経の崩壊(nervous breakdown)”のようなものがありましたね？そしてさらに……あなたは何か、伝道者(preacher)としての

働きをされていますね?そうでしょう?ええ、あなたはそうです。

そしてその働きは、救世軍(Salvation Army)のような働きに関係していますね?違いますか? («そう
です»)

あなたのご主人も、その組織の中である種の役職(officer)を持っておられますね?あなたは彼を尊
敬し、その立場を仰いでいますね?それは事実ですか?

(婦人:「49年間、私たちは共に奉仕してきました。»)主があなたを祝福してくださいますように。どうぞ、
こちらに。

23 主なる神よ、天と地の創造者よ。あなたは御子イエスをこの地上に遣わされ、

そして、この世の残酷な罪が主を十字架につけた後、主を死からよみがえらせてくださいました。そして
今夜、主はかつてと同じ啓示をもって、

変わらぬお姿のまま、ここに現れておられます。主は言われました。

「父がわたしに示されることだけを、わたしは行う。」

そしてさらに——「しばらくすれば、世はもうわたしを見ることはない。

だが、あなたがたはわたしを見る。(ああ神よ、どうか私を“あなたがた”の中にお入れください。)あなた
がたはわたしを見る。わたしはあなたがたと共におり、

あなたがたのうちにおり、世の終わりまで共にいる。」主よ、

私はこの婦人を、あなたの御子の御名によって祝福いたします。

どうか彼女が家に帰り、元気になり、喜びに満ち、これからの日々を

あなたの御国のために奉仕できますように。主イエス・キリストの御名によって、これをお祈りいたしま
す。

アーメン。

姉妹よ、私はあなたの病状を細かく覚えてはいません。

しかし、祈っている間に分かったことがあります。「あなたは良くなる」

——そう主が示されました。ですから今、私がお伝えすることをそのまま行いなさい。そうすれば大丈夫
です。ここを出るとき、できる限り喜びに満ちた心で出て行きなさい。そして、喜びと感謝をもって証し
(Testify)し続けなさい。

主はあなたの“告白の大祭司”です。主は、あなたが「信じる」ことを望んでおられます。今、この瞬間、あ
なたの癒しを受け取りなさい。

そして帰りながらこう言うのです——「主よ、私を癒して下さってありがとうございます。」そうすれば、
その病はあなたから離れ、消えていくでしょう。

(婦人:「主は日曜日にこう約束してくださいました。『あなたの祈りを聞き、あなたの涙を見た。わたしは
あなたを癒す』と。»)神があなたを祝福してくださいますように、姉妹。(婦人:「そして私は言いました。『もし
ブラナム兄弟の集会に行くと、祈っていただけたら、私はきっと癒される』と。»)アーメン。

だからこそ、あなたの信仰がそれを成し遂げたのです。神があなたを祝福し、助けてくださいますように。
もう、何も悪かったことなどなかったかのように歩き、ただ神を賛美し、感謝し続けなさい。

24 こんにちは、兄弟。あなたは 主イエスがここにおられ、

あなたを癒し、元気にして下さると信じますか? («心の底から信じています。»)私は、その言葉を信じ
ますよ。もしあなたが心の底から信じるなら、

その糖尿病(diabetes)はあなたを離れます。信じますか？

——神があなたを祝福してくださいますように。主イエスよ、どうかこの兄弟が今夜ここを立ち去るとき、糖尿病のこの状態が彼の体から完全に離れますように。そして彼の信仰によって、健やかな人となりますように。主イエスの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福してくださいますように、兄弟。

喜びながら帰りなさい。

そして 神の大いなる祝福を感謝し続けなさい。

はい、どうぞ。

皆さん、信じておられますか？

それなら——

神を信じ、信仰をしっかり保ちなさい。

25 こんにちは、兄弟。

私たちはお互いに何の知り合いでもありませんね？ ええ、その通りです。

ではお聞きします。

主の御業はどの時代にも現されると信じますか？

主が“昨日も今日も、いつまでも同じお方”であることを信じますか？

主が本当に死からよみがえり、

今夜も人々のあいだを歩いておられると信じますか？

そう信じますか？

そして、

この世界が造られる前から、

主はご自身の御計画を立て、

ある出来事をあらかじめ定めておられた

——そのことも信じますか？

今夜あなたが見ている出来事も、そのひとつです。

そうですね？

信じますか？

兄弟、あなたはひどく弱っておられます。

健康が大きく損なわれ、

いくつもの問題を抱えています。

あなたが——

ひどく咳をしている姿が見えます。

喉に何か問題があるようですが……

いいえ、これは

喘息(asthmatic condition)です。

その通りでしょう？

あなたには、

たくさんのお子さんがいますね？

あなたの周りに5人、6人ほどの小さなお子さんが見えます。

(「6人です。」)

6人、そうですね。

そして、あなたの奥さんも

病んでおられますね。

腎臓に問題があります——

腎臓のあたりに異常が見えます。

そうですね？

では聞きます。

あなたは、私が神のしもべであると信じますか？

兄弟——

ここにあなたの“本当の問題”があります。

あなたは昔、

教会に通い、

主と歩んでいたクリスチャンの男性でした。

しかし、今は

そこから離れてしまいましたね。

そうでしょう？

あなたは神に背を向けてきたのです。

もし主が、

あなた自身と、あなたの家族を癒してくださるなら、

あなたは主に戻り、

教会に戻ってお仕えすると約束しますか？

(「はい、必ずそうします。」)

では——

こちらに来なさい。

父よ、

必要を抱えたこの兄弟のために、

私たちは今、憐れみを祈ります。
どうか彼に慈しみを示し、
その体を癒し、元気にしてください。
喜びをもって帰ることができますように。
主のしもべとして、
私は彼の上に手を置きます。
主が残された最後の御言葉——
「信じる者にはこのようなしるしが伴う。
わたしの名によって悪霊を追い出し、
新しい言葉を語り、
蛇をも手に取り、
毒を飲んでも害を受けず、
病人に手を置けば、病人は回復する。」
——この御言葉の記念として手を置きます。
どうか、兄弟にこの回復を与えてください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン。
神があなたと共にいてくださいますように、兄弟。
喜びながら、幸いな心で帰りなさい。

26 信じますか？

まあ、小さな心を神さまが祝福してくださいますように。
日曜学校は好きかな？
それはすばらしいね。
あなたは、ちょっと困ったことがあったんだね？
そうでしょう？
それは——
頭のほう、脳の状態に関することですね。
お子さんの親御さんは近くにおられますか？
ご婦人、私が申し上げていることが
お分かりになりますね？
これは真実ですね？
——ええ、あなたはお分かりでしょう。
医者にも診せましたね。

そして、いくつかのことが起きていました。

この子どもには、

神からの御助けが必要なのです。

医者は自分の知る限りのことを

すべてしてくれています。

その働きと知識に対して、

神の祝福がありますように。

しかし今必要なのは、

医師の知識を超えた、

もっと大いなる力なのです。

けれど、信仰を持ちなさい。

私は、この子は良くなると信じます。

——おいで、かわいい子。祈り

主なる神よ、

天と地の創造者よ。

この腕に抱いている

この愛らしい幼子を、

サタンは悪意をもって苦しめようとしています。

どうか、

主のしもべの祈りをお聞きください。

主よ、この子はまだ幼く、

信仰も当然ながら弱いでしょう。

しかし、ここにいる主のしもべたちと共に、

どうか私をお助けください。

この悪しき者に打ち勝つ力を

お与えください。

サタンよ——

主イエス・キリストの御名によって命じる。

この子どもから離れよ。

医者の中から隠れることはできても、

神の前からは隠れることはできない。

神はお前がどこにいるかをご存じだ。

この子どもを離れ、

彼女から出て行け。

私は、生ける神の御子イエスの名によって

お前に命じる。

小さな姉妹よ、私はあなたを祝福します。

主イエスのしもべとして、

あなたが癒され、

生涯神に仕えることができるように、

その御名によって祝福します。

さて、かわいい子。

ひとつ聞きたいことがあるよ。

あなたは、もう良くなると信じる？

信じるね？

——神さまがあなたを祝福してくださいますように。

27 (テープ切れ)……何かあります。ああ、そうです。あなたが今ここに来られた目的は、信仰をもう一段引き上げるためです。ただそれだけなのです。

あなたの状態は——神経衰弱(nervousness)です。あなたは崩れつつあり、

どんどん弱っていつているのです。私は主に伺いました……もし私の記憶が正しければ、あなたは数日前にも来られ、祈っていただきましたね？

(婦人:「ストレッチャーに乗って来ました。そしてあなたは『立ちなさい、そうすれば良くなる』と言われました……」)(テープ切れ)

姉妹よ……あなたは お母さん でもありますね？

あなたは祈りを求めて遠方から来られました。私ができることは、

祈りを捧げることだけです。しかし、あなたにこれは必ず言わなければなりません。この状態にとどまるなら、あなたが生きられる時間はほんのわずかです。それは明らかなことです。あなたの医者も、それを知っています。ですから、あなたはこれをしなければなりません。今の状態から、どうにかして“上に”上がらなければならないのです。あなたの考え方がこの“低いところ”に沈んだままではいけません。あなたはここで「私はもう終わりだ……」と考えています。しかし、ここから 上へ 来なければなりません。「私は生きる」「私は立ち上がる」と心で思える場所へ 上がらなければならないのです。聖書は言っています——「人は心で思うとおりの者になる。」これは……もし「心理学」と呼びたいなら呼んでも構いませんが、どう呼ぶにしても、真実なものです。そして肝心なことはこれです。あなたは、何か“あなたを引き上げてくださるもの”を信じない限り、決して上へは行けない。——その通りです。

28 さあ、よく聞いてください。城門に横たわっていたツアラアトの四人の男を思い出してごらんください。彼らはこう言いました。「ここに座っていても死ぬだけだ。

町に入っても飢えて死ぬ。ここにいても死ぬ。しかし、シリア人の陣営に行けば、もし彼らが私たちに殺しても、どうせ死ぬのだ。しかし、もし生かしてくれるなら、私たちは生きる。」そして彼らは立ち上がり、シリア軍の陣営へ向かって行きました。神は彼らの信仰に報いられました。そうですね？

彼らは自分たちだけでなく、サマリアという町全体を救ったのです。

そうでしたね？

さて、姉妹よ。今夜あなたが招かれているのは、敵の陣営ではありません。

あなたは“天の父の家”に招かれているのです。そこに、父なる神があなたを待っておられます。信じますか？

ご覧なさい。これはあなたの“いのち”に関わることです。私は預言者として、

“何が原因でここまで来たか”を示すことはできます。しかし——

ここから先は黒く閉ざされています。なぜなら、あなたの信仰が結果を決めるからです。私はあなたの代わりに信じることはできません。

私にできるのは、神がくださった賜物の範囲で語るだけです。

しかし——救いでも、癒しでも、最終的にあなた自身の信仰が鍵なのです。

けれど、もしあなたがすべてを投げ捨て、全力で神にしがみついたら——

あなたは癒されます。

信じますか？（「はい。」）もし私が神に祈り、その悪しき力があなたを離れるように求めたら、あなたはそれが去っていくと信じますか？家に帰って元気になり、

力強く立ち上がると信じますか？あなたは、大きくて健康そうに見える人たちが、身体の中にがんを抱えながらも、完全に癒されて生きているのを見たでしょう。なぜか？彼らに信仰があったからです。

29 では、頭を垂れてください。あなたの問題は——**精神的な神経の乱れ(mental nervousness)**です（婦人：「死にそうに感じるときでも信じるべきですか？」）

見てください。どんなふうにも“感じる”かに関係なく、信じなければならぬのです。あなたは“感じること”に頼っています。しかし私たちは、感じるのではなく、信仰によって歩むのです。そこに“足りない部分”があるので、姉妹。

私はあなたに元気になってほしいのです、分かりますね？でもあなたは、

心が常に乱されている状態なんです。だから、こうしなければいけません。「主よ、私を癒してくださりありがとうございます。」「主よ、感謝します。」「調子はどうですか？」と聞かれたら、「素晴らしいです。癒してくださった主に感謝します。」——と答えなさい。そのように続ければ、あなたは必ず良くなります。分かりますか？これが“波を乗り越えて”上に上がる道なのです。戦いがあるからこそ、勝利があるのです。主イエスよ、この婦人を祝福してください。私は彼女の上に手を置き、この悪しき霊に命じます——「お前は暴かれた。神がキリスト・イエスの御名においてお前を叱る。この婦人から離れよ！出て行け！」どうか彼女が癒され、元気になって歩み出せますように。天の父よ、この祝福を主イエス・キリストの御名によって求めます。アーメン。見てください。さあ、足を上げてごらんください。そして言うのです。「主よ、ありがとうございます。」手を上げて——「主よ、感謝します。今、とても良いです。」そう、それでいいのです。では、このまま自分で歩いて壇上を降りて行きなさい。そのまま進みなさい。皆で主を感謝しましょう。ときどき、悪霊はしがみつこうとします。しかし、それは人々の“信仰”が鍵になるのです。悪霊は主の臨在の前では留まれません。必ず出て行きます。しかし——患者自身が十分な信仰を持ってそれを完全に離れさせるなら、それが一番良いのです。はい、次へ進みましょう。

30 あなたは、その貧血の状態から癒されたいですか？

そう思うなら、言いなさい——「主よ、感謝します。」

さあ、喜びながら壇上を降りて行きなさい。そしてこう言い続けなさい。

「神に栄光あれ！」

ご婦人、あなたは心臓の不調から癒されたいですか？言いなさい——「主よ、感謝します。」（婦人：「イエス様、ありがとうございます。」）——その通りです。それでいいのです。

ちょっと待ってください。そこに座っているあの婦人も、同じく心臓の問題を抱えていましたね？さらに

胃の問題もありました。そうでしょう、婦人？

(ブラナム:「その通りですね?」)あなたもまた、先ほどあの婦人が癒されたのと同じ瞬間に癒されました。お二人とも、

本当の原因は“心臓”ではありませんでした。胃のガスが心臓を圧迫していたのです。横になると特に悪化しますね?(婦人たち:「はい。」)鼓動が乱れ、ドキドキして、胸がざわつくようになりますね?ええ、それが原因でした。

そして、悪霊が叫びながら出て行ったのです。

その隣に座っている婦人、あなたは 副鼻腔炎(sinus trouble) がありますね?

癒されたいですか?神があなたを祝福されますように。

さらにその後ろに——胸の脇を押さえている婦人が見えます。あなたは

胸に痛みと焼けるような感覚がありますね?そうでしょう?

それは、その部分に入り込もうとしていた“悪霊”です。

今——あなたは癒しを受け取りますか?癒しを信じるなら、

手を挙げて言いなさい。「私は癒しを受け取ります。」……その通りです。

神があなたを祝福されますように。家に帰って、癒されていなさい。アーメン。

31 あそこ、柱にもたれて座っているご婦人。その関節炎(arthritis)から癒されたいですか?神があなたを癒してくださると信じますか?もし信じて、その癒しを“受け取る”なら——その瞬間、あなたは癒されます。神があなたをお健やかにされます。

ここにもう一人、ご婦人がいます。あなたは 胆のうの問題(gall bladder trouble)を抱えていますね?(列の端に座っているご婦人)胆のうの激しい痛みを癒していただきたいですか?そうですか。——それなら、受け取りなさい。

神さまがあなたを祝福してくださいます。

今、癒しが建物全体を動いています。

あちらこちら、至るところで。

あなたのすぐ隣に座っているご婦人——あなたには 神経の問題(nervous trouble) がありますね?その通りでしょう?では、癒しを“受け取り”なさい。

そうすることで、あなたは癒されたのです。神があなたを祝福されますように。

信じ続けなさい。

さあ、こちらへ来てください、婦人。あなたもあの方と同じ、神経の問題を抱えておられましたね?でも——あなたは、まだ席に座っているときに

すでに癒されてきました。椅子に座っていたその瞬間に主があなたに触れてくださったのです。さあ、そのまま進みなさい。癒されて、感謝しなさい。

主をほめたたえなさい!主に感謝をささげなさい!

32 こちらへ来てください、婦人。もう少し近くへ。あなたは 関節炎 を癒され、

元気になりたいですか?(婦人:「もちろんです。イエス様の御名を賛美します。」)それなら——足を踏みならしてごらんください。上下に動かしてみてください。

そう、それでいいのです。さあ、そのまま壇上を降りて行きなさい……。

なぜ、今この瞬間に癒しを受け取らないのですか？癒しは、この建物中に満ちているのです。もう、あなたのために準備されているのです。生ける神の御霊が動いておられます。さあ、次の婦人を連れてきてください。こちらへどうぞ。

あなたも関節炎を癒されたいのですね？それから、婦人特有の病気もありますね。そうですね。では——足をしっかり上げ下げして、「主イエス様、癒して下さってありがとうございます」と言いなさい。はい、そうです。さあ、壇上を降りて行きなさい。喜びに満たされて。「神に栄光あれ!」と言いながら進みなさい。

33 あなたは、ご自身の病から癒されたいですか？

それなら——

神に求めなさい。

今、この瞬間に、神はあなたに癒しを与えてくださいます。

見てごらんください、若いご婦人。

あなたは 胃の病 を癒されたいですか？

癒されたいなら、

こう言いなさい——

「私は……」

さあ、家へ帰りなさい。

好きなものを食べてよいのです。

あなたは 今、癒されました。

そのまま進みなさい。

神を信じ続けなさい。

皆さんで言いましょ。

「神に感謝します!」

あなたは 心臓の不調 を癒されたいですか？

では、行きながらこう言いなさい。

「主よ、私を癒して下さりありがとうございます。」

ここにいる皆さん、

癒されたい方は全員、癒されることができます。

神が、

今夜ここにおられ、

あなた方ひとりひとりを癒すために臨んでおられるのです。

信じますか？

それなら——

立ち上がりなさい。

全能の神よ、

どうかこの民に、
あなたの祝福をお与えください。
彼らすべてを癒してください。
私は、この建物の中に働く
悪しき霊どもを、
この人々から追い払います。
イエス・キリストの御名によって命じる——
サタンよ、出て行け！
さあ、手を挙げなさい。
主を賛美しなさい。
あなたの癒しを感謝しなさい。
こちらへ来て下さい、説教者。



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7